

# 令和2年木造建築士試験

試験場	受験番号	氏名
	—	

## 問題集

学科Ⅲ（建築構造）

学科Ⅳ（建築施工）

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

- この問題集は、学科Ⅲ（建築構造）及び学科Ⅳ（建築施工）で一冊になっています。
- この問題集は、表紙を含めて14枚になっています。
- この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
- 問題は、全て五肢択一式です。
- 解答は、各問題とも一つだけ答案用紙の解答欄に所定の要領ではっきりとマークして下さい。
- 解答に当たっての留意事項は、下記の(1)及び(2)のとおりです。
  - 適用すべき法令については、令和2年1月1日現在において施行されているものとします。
  - 地方公共団体の条例については、考慮しないものとします。
- この問題集については、試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます。  
(中途退出者については、持ち帰りを禁止します。)

# 学科Ⅲ（建築構造）

〔N o. 1〕 木造建築物に作用する荷重及び外力に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 屋根の積雪荷重は、屋根に雪止めがない場合には、屋根勾配に応じて低減することができる。
2. 用途変更や増改築等を予定している建築物には、それらを想定した積載荷重や固定荷重をあらかじめ設定する。
3. 床の単位面積当たりの積載荷重は、一般に、「店舗の売場」に比べて、「住宅の居室」のほうが大きい。
4. 床の単位面積当たりの固定荷重は、一般に、張り間(スパン)が大きいほど大きい。
5. 基礎に作用する外力には、土圧、水圧、地震力等がある。

〔N o. 2〕 木造建築物に作用する地震力及び風による水平力等に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 建築物の地上部分に作用する地震力は、同じ規模・形状の建築物の場合、一般に、木造建築物に比べて、鉄筋コンクリート造建築物のほうが大きい。
2. 2階建ての建築物に作用する地震力は、1階部分に比べて、2階部分のほうが大きい。
3. 片流れの屋根面に作用する風圧力は、作用する風の方向によって、正圧にも負圧にもなる。
4. 地震力及び風による水平力は、建築物に対して、短期に生ずる力として考える。
5. 地震力と風による水平力は、一般に、同時に作用しないものとする。

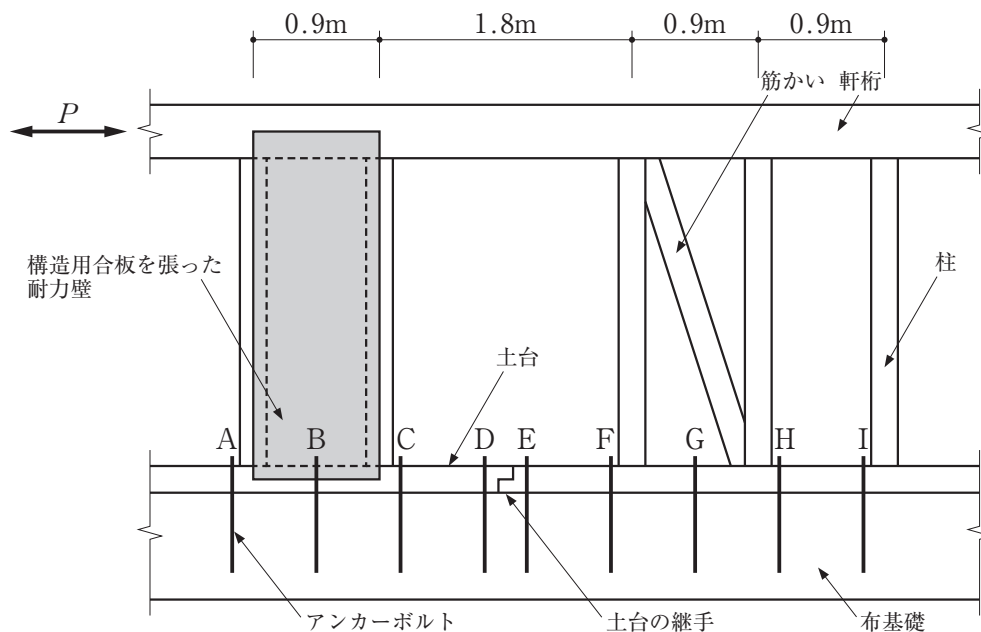
〔N o. 3〕 木造建築物における部材の名称とそれを使用する部位等との組合せとして、**最も不適当なものは、次のうちどれか。**

1. 下見板 ————— 外壁
2. 蹴込み板 ————— 天井
3. 落し掛け ————— 床の間
4. 飛梁 ————— 小屋組
5. まぐさ ————— 開口部

〔No. 4〕 木造2階建て住宅における鉄筋コンクリート造の基礎又は地盤に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか**。ただし、基礎については構造計算を行わないものとする。

1. 地盤の長期許容応力度が  $70 \text{ kN/m}^2$ であったので、べた基礎の底盤の厚さを  $10 \text{ cm}$ とした。
2. 地盤補強として用いた小口径鋼管とべた基礎との間に、捨てコンクリートを介在させた。
3. 切土及び盛土を行った造成地盤において、建築物は盛土側に設置した擁壁からできるだけ離して計画した。
4. 布基礎の床下換気孔まわりの補強筋として、 $D13$ の横筋と $D10$ の斜め筋を用いた。
5. 基礎断熱工法としたので、床下換気孔を設けなかった。

〔No. 5〕 図のような木造の軸組に、左右の方向から水平力 $P$ が作用するとき、アンカーボルトの位置A～Iの組合せとして、**最も適当なものは、次のうちどれか**。ただし、図中の各部材の接合部には、必要な金物を使用されているものとする。



1. A、B、C、G、I
2. A、C、D、F、H
3. A、C、E、F、H
4. B、D、E、F、H
5. B、D、E、G、I

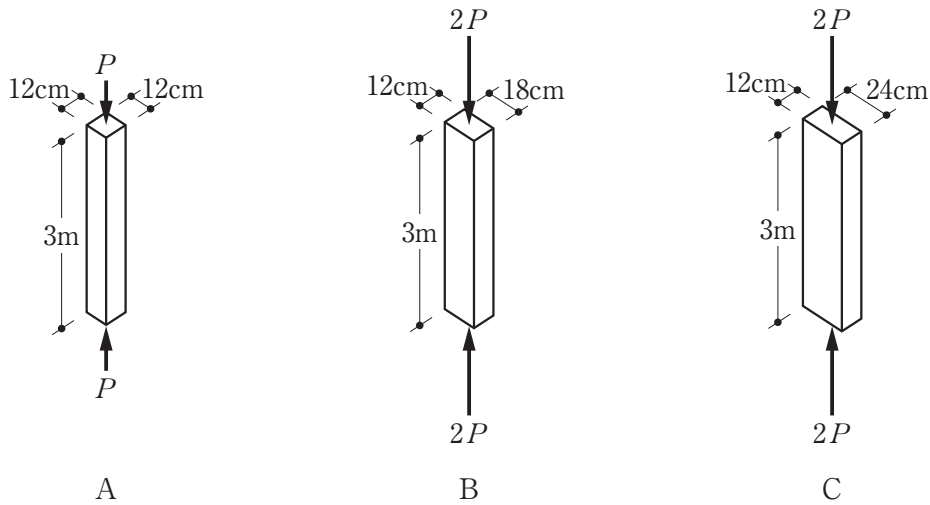
〔No. 6〕 木造軸組工法による建築物の柱又は横架材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 柱材には、一般に、広葉樹より針葉樹が用いられることが多い。
2. 柱に心持ち材を用いる場合においては、背割りを入れることがある。
3. 梁の横座屈を防止するためには、梁せいを大きくするよりも、梁幅を大きくするほうが効果的である。
4. 母屋の継手は、できるだけ小屋束間の中央部付近に設ける。
5. 頭つなぎは、柱上部をつなぐ部材で、屋根荷重を受けないものをいう。

〔No. 7〕 木造建築物の柱の断面寸法を決める場合、最も重要性の低いものは、次のうちどれか。

1. 屋根葺材の種類
2. 壁の重量
3. 柱の設置階
4. 間柱の間隔
5. 横架材相互間の垂直距離

[No. 8] 図のような両端から荷重 $P$ 又は $2P$ を受ける木造の柱A、B及びCの座屈のしにくさの大小関係として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、全ての柱の材質、支持条件は同一とし、荷重は断面の図心にかかるものとする。

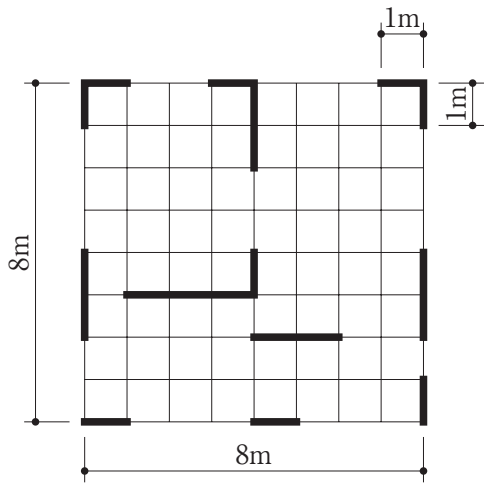


1.  $A > B = C$
2.  $A > C > B$
3.  $A = C > B$
4.  $C > A > B$
5.  $C > B > A$

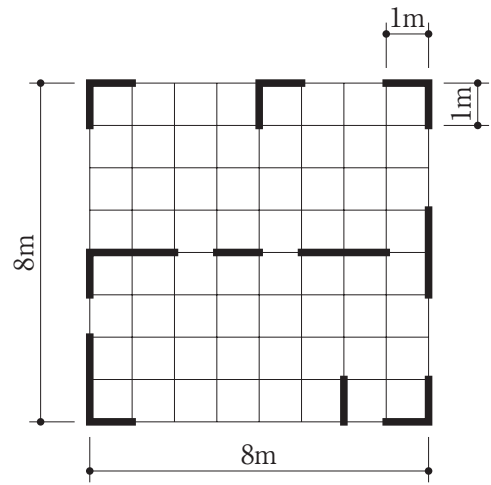
[No. 9] 木造軸組工法による2階建ての建築物の耐力壁に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断面寸法  $4.5\text{ cm} \times 9\text{ cm}$  の筋かいを、柱及び横架材を欠き込み、柱及び横架材に対してそれぞれN65釘を3本ずつ平打ちした。
2. 耐力壁の倍率は、片面を大壁造、他の面を真壁造としたので、5倍を限度として、それぞれの倍率を合計した値とした。
3. T字形の平面形状を有する建築物であったので、その平面を二つの長方形の区画に分割し、それぞれの区画で必要な壁量を満足するように耐力壁を配置した。
4. 2階の耐力壁線の位置は、1階の耐力壁線の位置にできるだけ一致するようにした。
5. 耐力壁線相互の距離が8 m以下となるように、各階の平面を計画した。

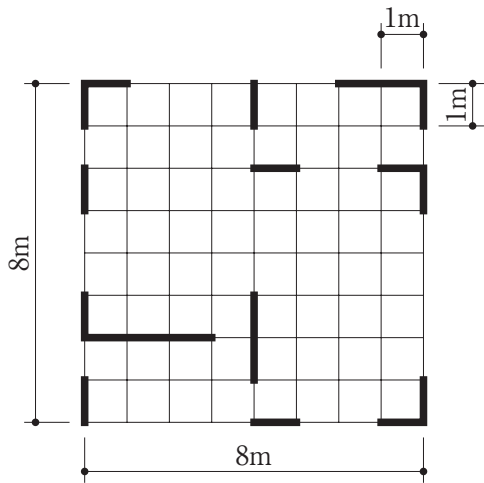
[No. 10] 木造軸組工法による平家建ての建築物において、図に示す平面の耐力壁(図中の太線)の配置として、最も不適当なものは、次のうちどれか。ただし、屋根は日本瓦葺(地震力に対する必要壁率は  $15 \text{ cm/m}^2$ )とし、全ての耐力壁の倍率は1とする。



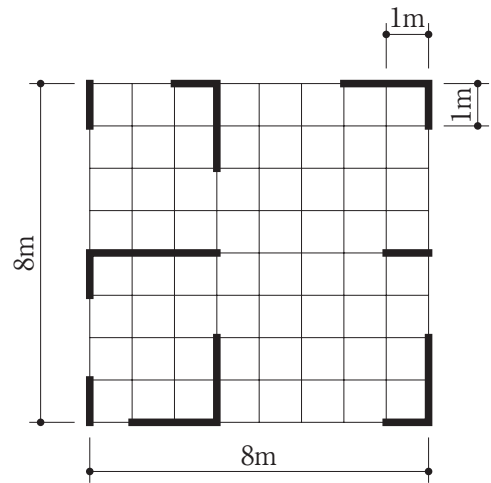
1.



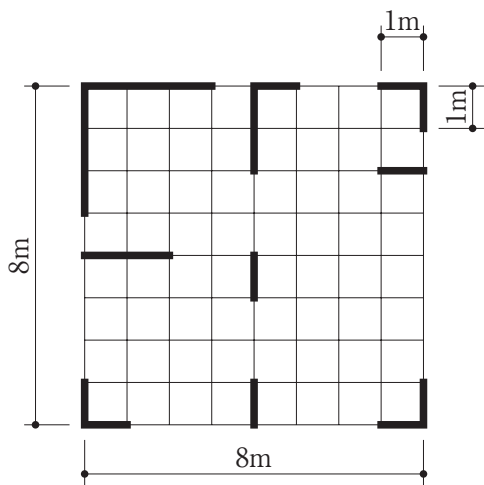
2.



3.

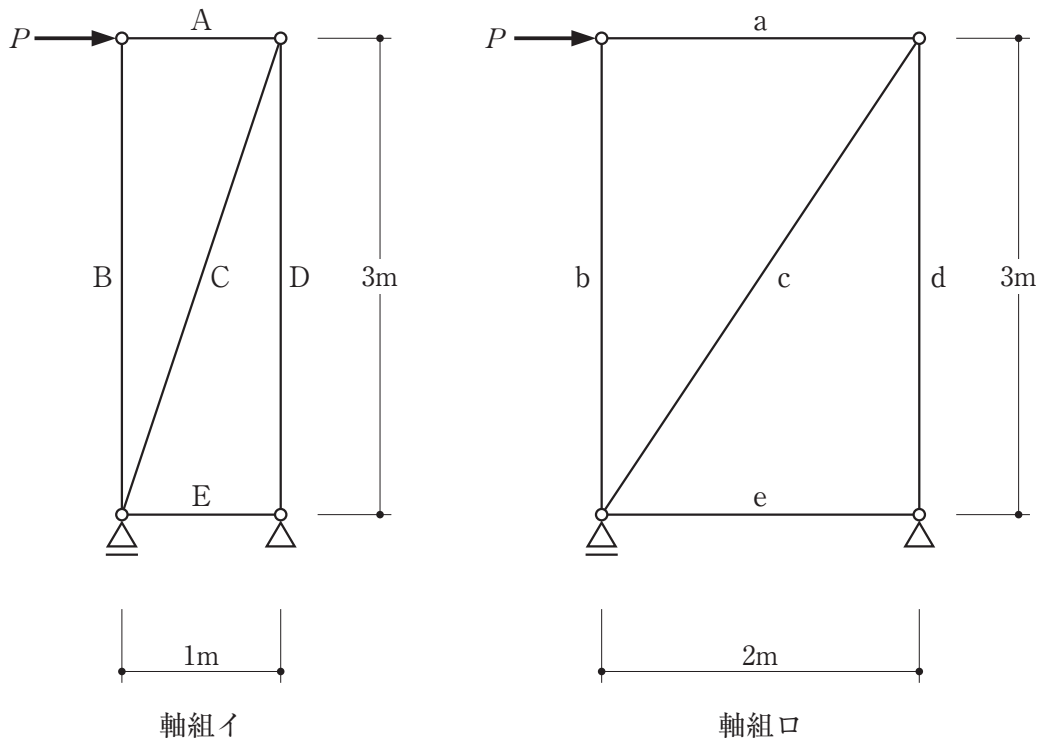


4.



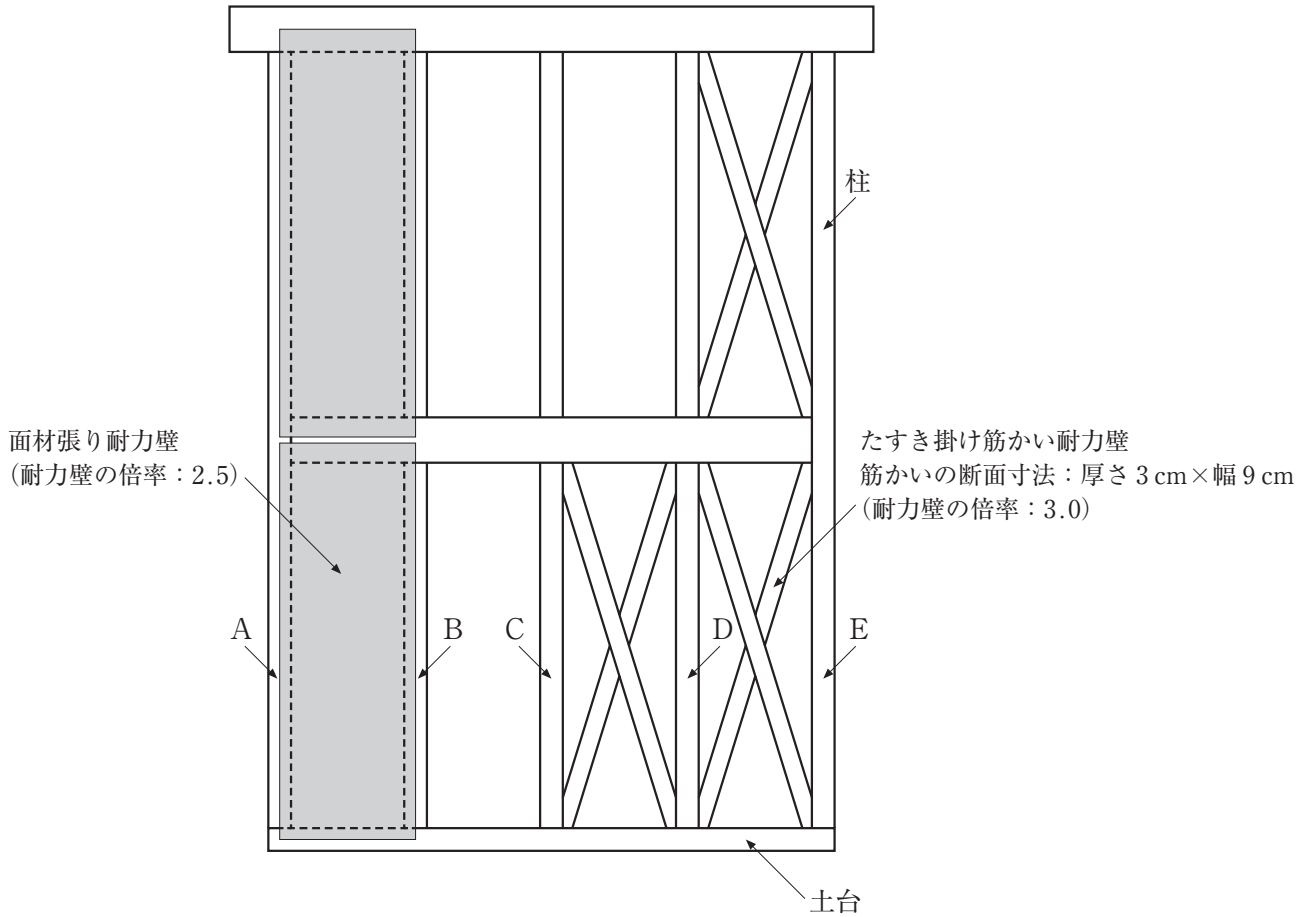
5.

[No. 11] 図のような水平力 $P$ が作用する軸組イ及び軸組ロについて、部材A～E及び部材a～eに生じる軸力に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。



1. 部材Aに生じる圧縮力は、部材aに生じる圧縮力と等しい。
2. 部材B及び部材bには、軸力が生じない。
3. 部材Cに生じる引張力は、部材cに生じる引張力よりも小さい。
4. 部材Dに生じる圧縮力は、部材dに生じる圧縮力よりも大きい。
5. 部材E及び部材eには、圧縮力が生じる。

[No. 12] 図のような2階建ての木造建築物の耐力壁の配置において、水平力を受けたときに柱 A～Eの脚部に生じる引抜き力が最も大きいものは、次のうちどれか。ただし、図中の各部材の接合部には、必要な金物を使用されているものとする。また、面材張り耐力壁(■部分)はいずれも倍率を2.5とし、たすき掛け筋かい耐力壁はいずれも倍率を3.0とする。



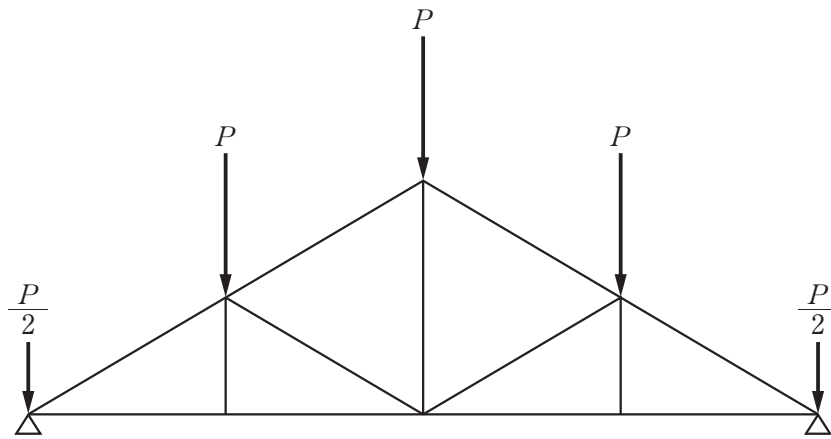
1. A
2. B
3. C
4. D
5. E



〔No. 13〕 木造建築物の小屋組に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 和小屋は、一般に、住宅などのように間仕切壁が多く、張り間(スパン)の小さい場合に用いる小屋組である。
2. 京呂組は、小屋梁を柱で直接支える構法である。
3. さす組は、2本の斜材と小屋梁等で三角形の骨組を構成する小屋組である。
4. 与次郎組の棟持ち柱式では、登り梁が用いられる。
5. うし梁(敷梁)は、長大にわたる小屋梁を中間で支持する直交梁である。

〔No. 14〕 図のような荷重が作用する小屋組(洋小屋)に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。



1. 真束には、引張力が作用する。
2. 陸梁ろくには、引張力が作用する。
3. 合掌には、圧縮力が作用する。
4. 方づえには、引張力が作用する。
5. 吊束つりには、引張力も圧縮力も作用しない。

〔N o. 15〕 木造軸組工法の建築物の2階床組に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 床組に構造用合板(厚さ15mm)を所定の方法により釘打ち張りするので、床の水平剛性を高めるために、落とし込み根太を転ばし根太に変更した。
2. 火打梁を用いた床の水平剛性を確保するために、床梁のせいを240mmとし、床面積に対する火打梁1本当たりの負担面積が $2.5\text{ m}^2$ 以下となるようにした。
3. 張り間(スパン)が5.4mある床面積の大きい室であったので、組床とした。
4. 床下地材として、厚さ24mmのスギの挽板<sup>ひき</sup>を用いたので、主要な横架材が交わる部分に火打梁を設けた。
5. 床下地に厚さ24mmのさね加工<sup>さね</sup>を施した構造用合板を用い、根太を省略した床組とするため、床梁の配置を910mm間隔とした。

〔N o. 16〕 枠組壁工法による2階建ての建築物に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、構造計算は行わないものとする。

1. 多雪区域内に建つ建築物であったので、地震力に対する必要壁率の値は、垂直積雪量に応じた値とした。
2. 床の枠組材と床材とを構造耐力上有効となるように補強したので、耐力壁線に囲まれた部分の水平投影面積を $60\text{ m}^2$ とした。
3. 耐力壁線に設ける全ての開口部の幅をそれぞれ4m以下とし、かつ、その幅の合計を当該耐力壁線の長さの $\frac{4}{5}$ とした。
4. 屋根を構成する垂木相互の間隔を455mmとしたので、屋根下地材に厚さ9mmの構造用合板を用いた。
5. 2階の耐力壁の直下に耐力壁を設けなかったので、当該耐力壁の直下の床根太を構造耐力上有効に補強した。

〔N o. 17〕 木造軸組工法による2階建ての建築物の構造計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 敷地が軟弱地盤であったので、建築物に配置する耐力壁の量を1.5倍とした。
2. 軸組に方づえを設けて水平力に抵抗させることとしたので、柱が先行破壊しないことを確認した。
3. 吹抜けを有した建築物の2階の壁量計算用の床面積は、2階の床面積に吹抜け部分の面積を加えたものとした。
4. 平面的な剛性分布のバランスの指標である偏心率が0.3を超えるように、耐力壁を配置した。
5. 屋根を金属板葺としたので、「垂木と母屋<sup>もや</sup>」、「母屋と小屋束等」の接合部は、瓦葺の場合に比べて強固に緊結した。

〔No. 18〕 木造軸組工法による2階建ての既存建築物の耐震性を向上させる方法として、一般に、最も効果の低いものは、次のうちどれか。

1. 大きな吹抜け部分を、構造用合板を張り付けたキャットウォークを用いて補強した。
2. 1階床組の大引と根太とを、金物により緊結した。
3. 耐力壁を構成する1階柱の柱脚部と基礎とを、金物により緊結した。
4. 足固めのない玉石基礎であったので、地盤面上に一体の鉄筋コンクリート造の底盤を設け、足固め・金物等を用いてその底盤と柱脚部とを緊結した。
5. 無筋コンクリート造の布基礎であったので、あと施工アンカーによる差し筋を行い、新たに鉄筋コンクリート造の布基礎を抱き合わせた。

〔No. 19〕 木造建築物の各部における鉛直荷重による力の流れとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 1階床荷重(東立て床)  
床板 → 根太 → 大引 → 床束 → 東石
2. 2階床荷重(組床)  
床板 → 根太 → 小梁 → 大梁 → 胴差 → 柱
3. 2階天井荷重  
天井板 → 野縁 → 野縁受 → 吊木<sup>つり</sup> → 吊木受<sup>つり</sup> → 小屋梁
4. 屋根荷重(洋小屋)  
野地板 → 垂木 → 母屋<sup>もや</sup> → 合掌 → 敷桁 → 陸梁<sup>ろく</sup> → 柱
5. 屋根荷重(和小屋折置組)  
野地板 → 垂木 → 母屋<sup>もや</sup> → 小屋束 → 小屋梁 → 柱

〔No. 20〕 木材の一般的な性質に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断面が大きい木材を燃焼させる場合、木材の燃焼面から炭化するが、その速度は、1分間に6mm程度である。
2. 木材の気乾含水率(大気中に放置した状態で乾燥させた木材の含水率)は、我が国では約15%である。
3. 木材の乾燥収縮率の大小関係は、接線方向 > 半径方向 > 繊維方向である。
4. 木材のクリープによる横架材の曲げ変形の増加量は、一般に、乾燥材より未乾燥材のほうが大きい。
5. 木材の熱伝導率は、普通コンクリートの熱伝導率に比べて小さい。

〔N o. 21〕 木材の強度に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木材の繊維方向、半径方向及び接線方向の強度の比は、20：2：1 程度である。
2. 木材の曲げ強さは、一般に、曲げ弾性係数が高いものほど大きい。
3. 木材のめり込みに対する基準強度は、樹種によって規定されている。
4. 木材の破壊は、引張荷重に対して脆性的であるが、めり込みに対しては粘り強い。
5. 木材の繊維方向の圧縮、引張り及びせん断の基準強度の大小関係は、一般に、引張り > 圧縮 > せん断である。

〔N o. 22〕 木材の腐朽、防腐及び防蟻に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木材に食害をもたらす代表的なシロアリは、ヤマトシロアリとイエシロアリである。
2. 木材の耐腐朽性や耐蟻性は、一般に、辺材より心材のほうが高い。
3. 木材腐朽菌は、水分がなくても十分に繁殖する。
4. 外壁をモルタル塗り仕上げとする場合の軸組の腐朽防止には、外壁通気構法が有効である。
5. 表面に塗布する防腐処理は、加圧式防腐処理に比べて、一般に、その効果の継続時間が短い。

〔N o. 23〕 木質材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 「集成材の日本農林規格」における集成材は、アセトアルデヒド放散量の大小によって性能区分される。
2. 「合板の日本農林規格」における特類の構造用合板は、屋外又は常時湿潤状態となる環境下で使用することができる。
3. 「枠組壁工法構造用製材の日本農林規格」による甲種枠組材は、主として高い曲げ性能を必要とする部分に使用する。
4. 構造用パーティクルボードの規格は、JISに定められている。
5. 木質接着成形軸材料は、木材の単板を積層接着、又は木材の小片を集成接着した軸材である。

〔No. 24〕 コンクリートに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートは、アルカリ性であることから、鉄筋コンクリートにおける鉄筋の錆<sup>さび</sup>を防ぐ効果がある。
2. コンクリートの圧縮強度は、引張強度よりも大きい。
3. コンクリートは、一般に、水セメント比が小さくなるほど、強度は低くなる。
4. スランプ値とは、フレッシュコンクリートのワーカビリティの判定の目安となるものであり、その値が大きいほど流動性が大きい。
5. AE剤などの混和剤は、ワーカビリティの向上など、コンクリートの品質を改善する目的で使用される。

〔No. 25〕 建築材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 溶融亜鉛めっき鋼板は、鋼板に亜鉛めっきを施した鉄鋼材料で、屋根材や外装材に用いられる。
2. 一般構造用圧延鋼材の引張強さは、温度が約 300℃を超えると急激に低下する。
3. 合わせガラスは、2枚以上の材料板ガラスで中間膜を挟み、全面接着したものである。
4. 発泡プラスチック系断熱材には、あらかじめ発泡させて板状とした製品と、施工現場で発泡させて用いるものがある。
5. JISにおいて、繊維板は、その繊維の長さによってインシュレーションボード、MDF及びハードボードに区分されている。

# 学科Ⅳ（建築施工）

〔No. 1〕 工事現場の安全確保に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高さが2 mの作業場所から不要な資材を投下するに当たり、資材が飛散するおそれ<sup>おそれ</sup>がなかったので、投下設備を設けなかった。
2. スレート葺の屋根の上での作業において、踏み抜きによる危険を及ぼすおそれ<sup>おそれ</sup>があったので幅30 cmの歩み板を設け、防網を張った。
3. 軒の高さが3 mの木造平家建て住宅の構造部材の組立て作業であったので、作業主任者を選任しなかった。
4. 移動はしごについては、幅を30 cmとし、脚部に滑り止め装置を取り付けた。
5. 折りたたみ式脚立は、脚と水平面との角度を80度として使用した。

〔No. 2〕 木造2階建て住宅の建築工事現場における仮設工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 布基礎の天端ならしを終えたので、遣方<sup>やりかた</sup>を撤去した。
2. 建方作業に、ラフテレーンクレーンを使用した。
3. 仮設工事計画書は、施工者が作成して保管した。
4. 単管足場の建地間の最大積載荷重を、400 kgとした。
5. 単管足場の地上第一の布の高さは、地盤面から2 mとした。

〔No. 3〕 木造2階建て住宅におけるべた基礎<sup>べた基礎</sup>工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 根入れ深さを、250 mmとした。
2. 基礎スラブ面を、建築物周囲の地盤面より50 mm高くした。
3. 基礎底盤には、水抜き孔を設置した。
4. アンカーボルトのコンクリートへの埋込み長さを、200 mmとした。
5. 立上り部分の厚さを、150 mmとした。

〔No. 4〕 木造2階建て住宅における土工事、地業工事等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 遣方<sup>やりかた</sup>において、水杭の上部を<sup>いすか</sup>鵜切りとした。
2. 砂利地業に使用する砂利は、粒径のよくそろった砂利を使用した。
3. ベタ基礎を採用したので、総掘りとして、建築物の下部を全面にわたって根切りした。
4. 割栗石は、一層小端立とし、隙間のないように敷き詰めた。
5. 基礎の墨出し、配筋、型枠の建込みをするために、捨てコンクリート地業を行った。

〔No. 5〕 木材の木取りとそれを使用する部位との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 心持ち材 ————— 土台
2. 板目材 ————— 敷居
3. 四方桁材 ————— 小屋梁
4. 杢<sup>もく</sup>目材 ————— 天井板
5. 二方桁材 ————— 長押

〔No. 6〕 木造住宅における木材の一般的な使い方等として、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 継手の相互の材については、送り継ぎ(元口と末口)又は行き合い継ぎ(末口と末口)とする。
2. 浴室などの水回り部分には、白太材を使用する。
3. 無節の材について、木裏にかんな削りをするときは、元口から末口へと削る。
4. 柱は、末口を上にして使用する。
5. 大引は、背を下端にして使用する。

〔N o. 7〕 木造軸組住宅の施工順序として、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 1階床組  
床束 → 根がらみ貫 → 大引 → 根太
2. 2階床組  
床大梁 → 床小梁 → 根太 → 床板
3. 小屋組  
母屋<sup>もや</sup> → 垂木 → 鼻隠 → 野地板
4. 内壁  
間柱 → 断熱材 → 胴縁 → 壁下地材
5. 竿縁天井  
回り縁 → 竿縁 → 天井板 → 稲子

〔N o. 8〕 木造軸組住宅における部材と使用する樹種との一般的な組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 母屋<sup>もや</sup> ————— スプルース
2. 小屋梁 ————— クロマツ
3. 胴差 ————— ベイマツ
4. 管柱 ————— スギ
5. 土台 ————— ベイヒバ

〔N o. 9〕 木造2階建て住宅における合板等の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 床板張りの合板下地板は、板の長手方向が根太と直交するように張り付け、釘打ちした。
2. 大壁造の壁倍率3.7の構造用合板を用いた耐力壁については、CN50釘で外周部を150mm間隔で打ち留めた。
3. 構造用合板を用いた耐力壁において、柱と横架材との接合部を山形プレート(VP)で補強する箇所については、その部分の構造用合板を切り欠き、その周辺に釘を増し打ちした。
4. 大壁造の面材耐力壁において、ラスシート張りの継目は、横方向の重ね代を1山重ねとし、縦方向の重ね代を30mmとした。
5. 真壁造の構造用面材の受け材の断面寸法は、30mm×45mmとした。



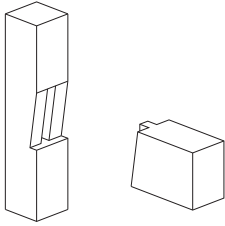
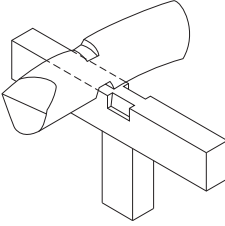
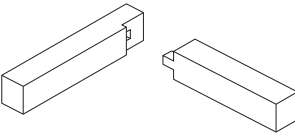
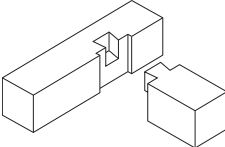
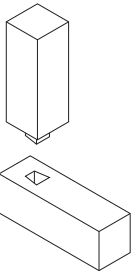
〔No. 10〕 木造軸組住宅において用いる金物(表示記号)とその使用箇所との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 火打金物(HB) ————— 床組の隅角部
2. 柱脚金物(PB-33) ————— 玄関ポーチの独立柱と土間コンクリート
3. くら金物(SS) ————— 小屋梁と軒桁
4. 折曲げ金物(SF) ————— 垂木と軒桁
5. ホールダウン金物(S-HD15) ——— 1階の管柱と2階の管柱

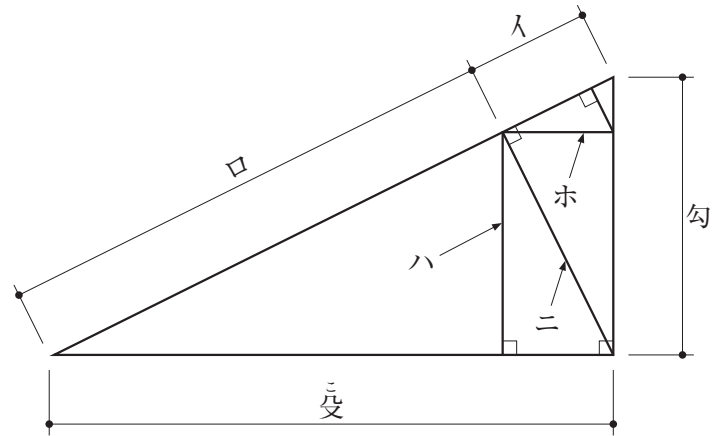
〔No. 11〕 木造軸組住宅における各部材の接合部に用いられる継手とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 柱の根継ぎ ————— 金輪継ぎ
2. 竿縁 ————— <sup>いすか</sup> 鴟継ぎ
3. <sup>もや</sup> 母屋 ————— そぎ継ぎ
4. 土台 ————— 腰掛け鎌継ぎ
5. 胴差 ————— 追掛け大栓継ぎ

[No. 12] 木造軸組住宅における仕口の名称とその図との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

仕口の名称	図
1. 傾ぎ大入れ短ほぞ差し	
2. かぶと蟻掛け	
3. 大入れ小根ほぞ差し	
4. 大入れ蟻掛け	
5. 扇ほぞ	

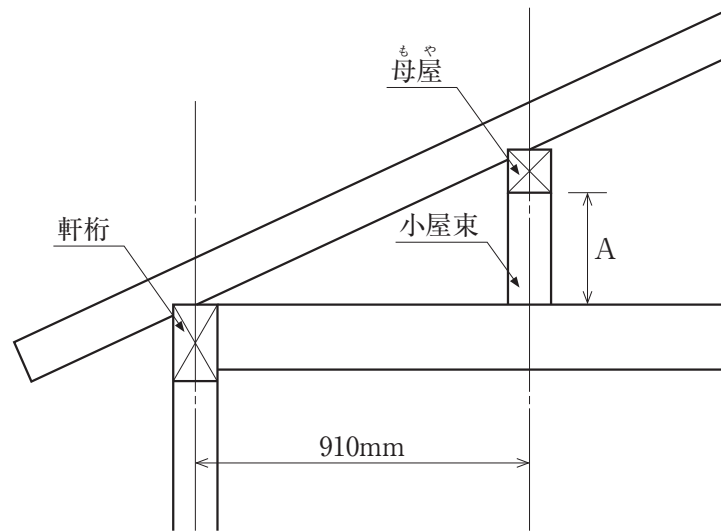
[No. 13] 規矩基準勾配図における線分イ～ホとその名称との組合せとして、誤っているものは、次のうちどれか。



規矩基準勾配図

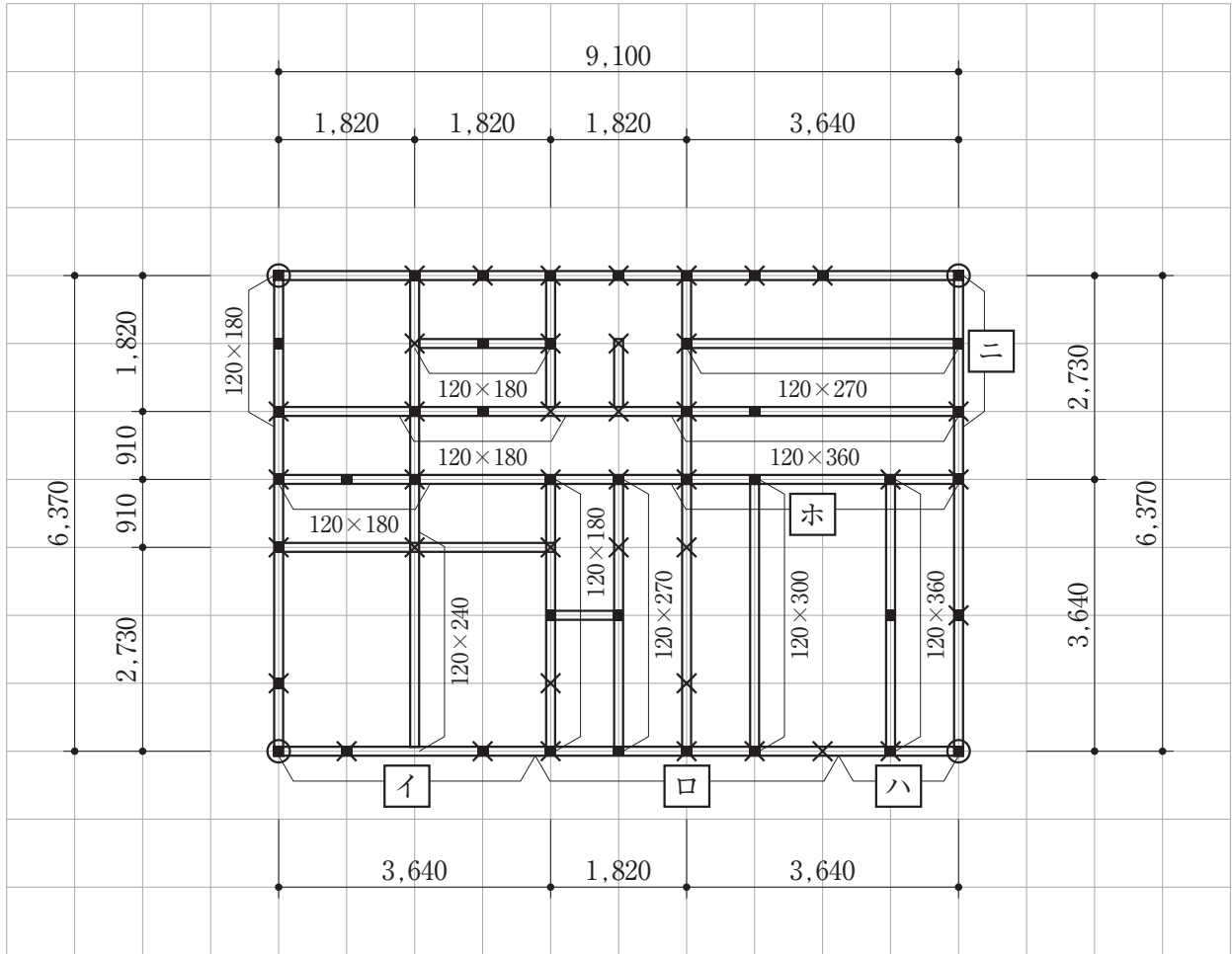
1. イ ————— 短玄
2. ロ ————— 長玄
3. ハ ————— 欠勾
4. ニ ————— 小中勾
5. ホ ————— 小変

[No. 14] 図のような木造住宅の小屋組において、Aの寸法として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、屋根の勾配は5寸勾配であり、軒桁心から小屋束心までは910mmとする。また、峠は軒桁上端、母屋上端とし、母屋の断面寸法は90mm×90mmとする。



1. 305 mm
2. 335 mm
3. 350 mm
4. 365 mm
5. 455 mm

[No. 15] 図のような木造2階建て住宅の2階床伏図において、部材イ～ホとその断面寸法(幅mm×せいmm)の組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。ただし、建築物は多雪区域以外の一般地域内に建つものとし、根太及び火打梁の表示は省略している。また、添え梁(枕梁)等はないものとする。

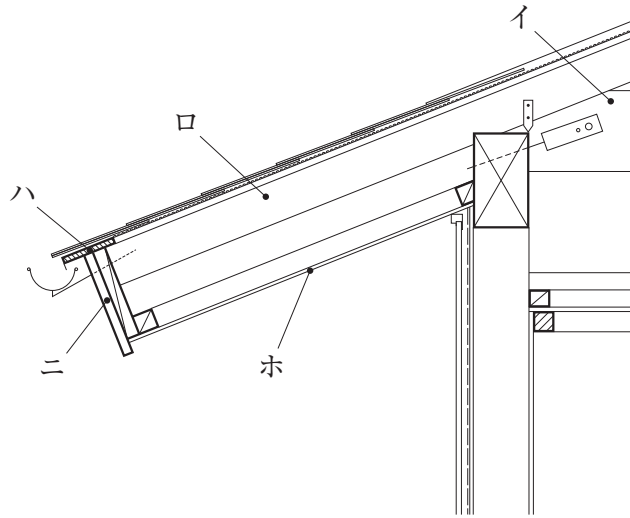


(単位：mm)

凡例	表示記号	通し柱	1階の管柱	2階の管柱	1階と2階が重なる管柱	胴差・2階床梁	
						(正角材)	(平角材)
		○■	×	■	⊗	—	▭

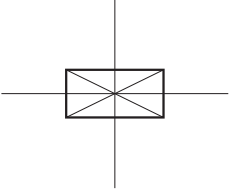


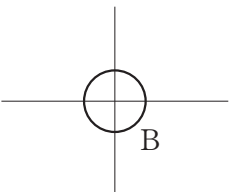
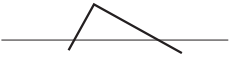
1. イ ————— 120 × 270
2. ロ ————— 120 × 300
3. ハ ————— 120 × 180
4. ニ ————— 120 × 240
5. ホ ————— 120 × 330

[No. 16] 図のような木造住宅の軒先部分の断面詳細図に示す部材イ～ホの名称として、最も不適当なものは、次のうちどれか。



1. イ ————— 小屋梁
2. ロ ————— 垂木
3. ハ ————— 広小舞
4. ニ ————— 鼻隠
5. ホ ————— 破風

〔No. 17〕 木工事における部材の墨付けに使用する合印とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

	合 印	名 称
1.		水印
2.		心印
3.		切り墨印
4.		ボルト孔印
5.		峠印

〔N o. 18〕 木造住宅における屋根工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 雨どいには、硬質塩化ビニル雨どいを用いた。
2. 庇<sup>ひさし</sup>の下葺に用いるアスファルトルーフィングは、壁面との取合い部において、その壁面に沿って200 mm立ち上げた。
3. 屋根の下葺において、アスファルトルーフィングは水下側から水上側に向かって張り進め、上下の重ね幅を100 mmとした。
4. 屋根断熱の工事において、断熱材の外側に通気層を設けた。
5. アスファルトシングルは、1枚ごとに所定の位置に専用釘で留め付けた。

〔N o. 19〕 木造住宅における左官工事及びタイル工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 気温が2℃以下であったので、モルタル塗り作業を見合わせた。
2. モルタル下地ラス工法の防水紙の継目部分は、タッカーを用いて、300 mm間隔で留め付けた。
3. 床のタイル張りにおいて、化粧目地詰めは、張付け用モルタルが硬化した後、目地部分の清掃をしてから行った。
4. コンクリート下地へのモルタル塗りにおいて、モルタル塗り面の早期乾燥によるひび割れを防止するために、塗り面に散水の後、シートを掛けて養生した。
5. 一般の平壁部分へのモザイクタイル張りは、下部から上部に張り進めた。

〔N o. 20〕 木造住宅における塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. せっこうボードの素地<sup>じゆ</sup>ごしらえは、汚れや付着物を除去し、パテかいや研磨紙ずりを行った後、全面にシーラーを塗布した。
2. 木部のクリヤラッカー塗りは、下塗りとしてウッドシーラーを塗布し、研磨紙ずり後、上塗りを行った。
3. 油性ステイン合成樹脂ワニス塗りにおいて、合成樹脂ワニスを塗った後、油性ステイン塗りを行った。
4. 吹付け塗装において、スプレーガンの運行速度が1秒間に30 cm程度となるように行った。
5. 吹付け塗装において、1回ごとの吹付け幅の約 $\frac{1}{3}$ が重なるように吹付けを行った。



〔N o. 21〕 木造住宅の建具工事及び内装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 洗面脱衣室の床の下地板に、耐水合板を使用した。
2. フローリングを直張りするに当たり、ウレタン樹脂系の接着剤を使用した。
3. 木製建具の<sup>かまち</sup>框と棧の仕口は、特記がなかったので、ほぞ組として接着剤を併用した。
4. ビニル床シートの張付けに用いる接着剤は、トルエン、キシレンの放散の量が極力小さいものを使用した。
5. 壁のしっくい塗りは、特記がなかったので、塗厚を 30 mmとした。

〔N o. 22〕 木造住宅における設備工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 給湯管には、架橋ポリエチレン管を用いた。
2. 給水横走り管は、上向き給水管方式を採用したので、先上がりの均一な勾配で配管した。
3. 管径 75 mmの屋内横走り排水管の勾配を、 $\frac{1}{100}$ とした。
4. 寒冷地以外の一般敷地内における給水管の地中埋設深さは、土かぶりを 300 mmとした。
5. 雨水ますには、底部の泥だめの深さが 100 mmのものを用いた。

〔N o. 23〕 木工具とその用語との組合せとして、最も関係の少ないものは、次のうちどれか。

1. 墨つぼ ————— かるこ
2. のみ ————— かつら
3. スコヤ ————— 唐尺
4. のこぎり ————— あさり
5. かんな ————— こっば返し

〔N o. 24〕 建築積算に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 工事原価は、一般管理費等と純工事費とを合わせたものをいう。
2. 複合単価は、材料費、労務費、機械・工具などの損料、下請経費などをまとめた単価をいう。
3. 設計数量は、設計図書に表示されている個数や設計寸法から求めた正味の数量をいう。
4. 屋外整理清掃費は、共通仮設費に含まれる。
5. 共通費は、共通仮設費・現場管理費・一般管理費等を合わせたものをいう。

〔N o. 25〕 木造住宅の工事請負契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 工事請負契約書には、注文者が工事の完成を確認するための検査の時期及び方法並びに引渡し  
の時期を記載しなければならない。
2. 工事請負契約書には、天災その他不可抗力による工期の変更又は損害の負担及びその額の算定  
方法に関する定めを記載しなければならない。
3. 工事請負契約書には、契約に関する紛争の解決方法を記載しなければならない。
4. 工事請負契約書には、主任技術者の氏名を記載しなければならない。
5. 住宅建設<sup>かし</sup>瑕疵担保責任保険契約の締結に関する定めをするときは、工事請負契約書にその内容  
を記載しなければならない。

